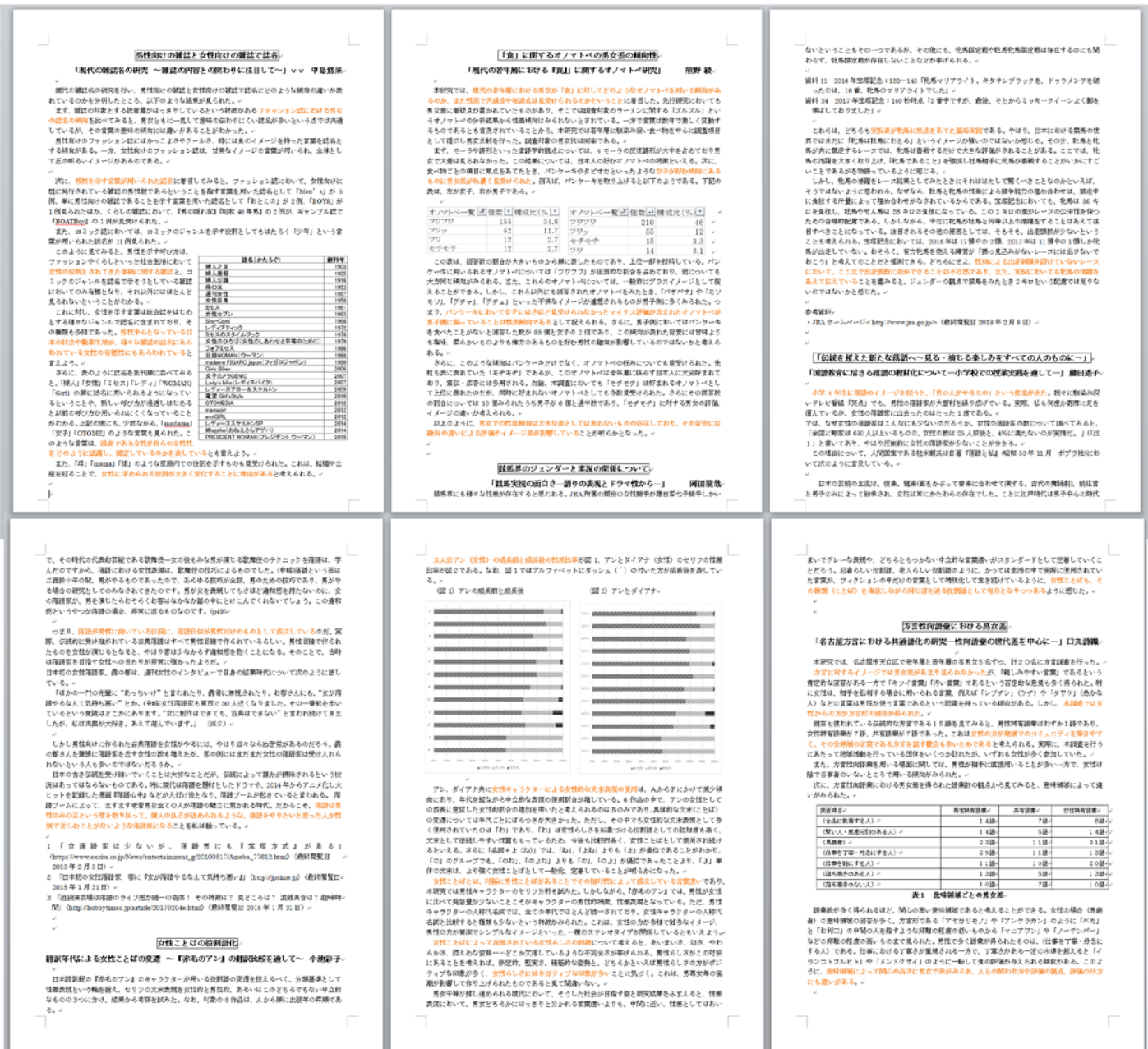


国語科教師を志望する学生への ジェンダーの視点を織り込んだ卒業論文指導法の研究

目的：国語科教師を志望する学生の卒業論文作成過程（国語学分野）において、ジェンダーの視点を取り入れた指導の在り方を探求し、その指導法の構築を実験的に試みる。この試みによって、指導する学生の卒業論文の中に、いかなるかたちでジェンダーの視点が取り込まれ・織り込まれるかを検証し、一連の卒業論文作成プロセスでの種々の指導によって、国語専攻の学生が、男女共同参画推進に役立つ有効な知識を習得し、意欲的な態度が育つ指導法を模索する。

方法： 各自のテーマのうちにジェンダーの視点を意図的に導入する。

- (1) テーマ選択、関連文献読解、調査計画・資料収集、データ分析、論文構成・体系化、執筆の各プロセス段階において、ジェンダーの観点から言語表現を捉える観点を意識的に設定する。
- (2) 言語事象における語彙・表現の男女差や変遷、言語運用面での女性ことば・中立的表現・男性ことばの相違に着目する。またその表現論的な働きについて考究する。プレゼンを実施し、相互批評をする。
- (3) 日常生活語、文学テキスト、芸能作品等に現れる、ジェンダーによる言語事象・言語表現の差異の要因とともに、その社会的な意味について、対話し討論し意見を出し合い、共有化する。
- (4) 言語事象・言語テキストの国語科教材化にあたっての課題について、各自のテーマに沿って意見交換



結果：以上に各卒業論文の中におけるジェンダーの観点からの考察の一例を示した。それぞれの問題意識から取り組んだ卒業論文テーマの中に無理なく、有効なかたちでジェンダーの視点が織り込まれていることがわかる。試みた指導法によって、ジェンダーの観点からコトバを主体的に捉える視点が育つとともに、国語科教師を志望する学生として、男女共同参画社会における課題の一端を各自の課題として捉えることができたと思われる。

